解　題

1996年５月下旬から、国連は“第Ⅱ回”の（ＨＡＢＩＴＡＴⅡ）の総会をトルコの首都イスタンブール市に開いた。20年前に第Ｉ回の総会をカナダのバンクーバー市に開いてから10数年。その間にわれわれは、研究学会“日本ハビタット学会”を設置し、中間に名古屋市でアジア大会を、最近は国連大学がその研究センターを東京に建設したことから第Ⅱ回の会議の前年1995年８月に“ＰＲＥＨＡＢＩＴＡⅡ”（国際ハビタ大会の前夜祭）として開かれた。その報告者は、地域社会研究所の協力により、既にこのシリーズの第１刊として公にしている。

日本ハビタット学会
会長　磯 村 英 一

国連は上記の国連大学の研究テーマを“未来の都市”と定め、一定の期間をもって、東京の国連大学本部を中心に研究がつづく。今回の会議はその基礎となるものである。

報告書の内容は、後半は日本からの参加者の発表要旨であるが、ほとんど全編が東京会議の協力者でもあった“ＮＩＲＡ”の理事「永田尚久君」の執筆によるもの、その識見の周到さは、十分に評価されるものであり、日本における未来の都市研究の指導書になるといってもよい。日本のハビタ学会の活動は、第Ｉのシリーズと共に大きくその未来が期待できると自負する。

国連は、たまたまこの期間10年を“世界人権教育”と位置付し、その趣旨は未来の都市研究にも投影すると考えられる。

本書の刊行が、激動する世界の情勢のなかで、その中心課題となる“ハビタ問題の実現”に大きく貢献するであろうことを祈念して解題とする。

会長　磯　村　英　一